令和５年度後期始業式　式辞

今日、令和５年度、後期が始まります。まず、私が全校のみなさんに伝えたいのは、この岐南中学校の後期の取組に大いに期待しているということです。

このキッズウィーク期間中、「立志塾」という行事があり、そこに、岐南中学校のリーダーが参加しました。この行事は、羽島郡のすべての学校から、リーダーが集い、今後さらに各学校をリードしてもらうことを目的として行われました。その時の様子を聞くと、羽島郡のリーダーとして、自ら真っ先に動き、小学生のリーダーに声をかけ、グループをまとめ、夢を実現させるための講話を聴いて、「挫折しそうになった時に、どうやって乗り越えるのか」と質の高い質問をするなど、「岐南中のリーダーの姿が特に素晴らしかった」という言葉を、羽島郡二町教育委員会主任指導主事の尾関さんから聞いて、本当にうれしく思っています。他の学校からもリーダーが集まっているわけですから、そんな見ず知らずの小中学校の児童生徒の中で、自らが真っ先に動くためには、「他の人から目」が気になるはずです。でも、自分の目標を成し遂げようとする強い決意で、その壁を乗り越えていくという「個性的な輝き」を放つ、そんな岐南中のリーダーを、私は誇りに思います。

また、１０月１４日、土曜日に、第11回全日本小中学生ダンスコンクール全国大会が東京の国立代々木競技場で行われました。この大会に、３年生の吉村さんと１年生の伊藤さんが「シュ・シュ」というチームで、中学生「オープン参加の部」で「銅賞」を収めてくれました。吉村さんは受験勉強との両立という大変な状況の中で頑張っていたこと、伊藤さんは今まで自分が演技種目を中心となってリードしてきた力を発揮してくれたということを、指導に当たってこられた小林さんからお聞きし、本当にうれしく思っています。学習や日常生活の取組とダンスを両立し、東海大会で金賞を勝ち取り、今回の成果を収めるというのは大変です。でも、そんな大変な状況でも、どんなことにも手を抜かないという「個性的な輝き」を放つ、そんな岐南中生を、私は誇りに思います。

この２つの出来事について、特に素晴らしいと思っているのは、これまで付けてきた力を、学校以外の場でも発揮しているという点です。中学校と小学校の最大の違いは、進路選択があるということですから、他の仲間と同じ中学校に進む小学校と違い、一人一人が独自の道で歩み出さなくてはなりません。だからこそ、中学校を離れても、社会で活躍し、社会に貢献できるような人になることが、中学校で何としても身に付けなくてはならない「生き方」なのです。終業式で、岐南中生のボランティアへの感謝の言葉を聞くとき、私は「岐南中生」を本当に誇りに思えるという話をしました。今の岐南中生が学校の教育目標「自ら動く～自分や仲間の夢や希望の実現のために～」に加え、社会で活躍し、社会に貢

献しようとしている、そして、他の誰でもない、自分ならではの「個性的な姿」で輝き始めている、今回の２つの出来事も、そんな岐南中生の姿を象徴していると思っています。

後期、「岐南中学校の後期の取組に大いに期待している」と言いましたが、後期とは、どんな時期か？それは、岐南中生一人一人が、令和６年度のスタートで、堂々と歩み出せる実力を十分に身に付け、個性的な輝きを放つ時期だと思っています。今年度の後期は、スポーツステーションも、合唱も、コロナ前と同様の行事が戻ってきます。それらの行事は、学級の仲間とともに行います。岐南中生が大切にしている日常生活、授業、係活動も、仲間とともに高め合っていくものです。しかし、最も大切なのは、「一人一人が力をつけているか」、「一人一人が個性的に輝いているか」ということです。それこそが、１年生は中核学年、２年生は最高学年として、３年生は社会に出て、令和６年度のスタートで、堂々と歩み出せることにつながるのです。最後に「キッズウィーク」の宿題の確認です。まずは、スポーツステーションでの勝利のために、一人一人が自分に何ができるのか、どんな力を付けるのか、今、心の中で言葉にしてください。（間）一人一人が真剣に考えてきてくれたことを、本当にうれしく思います。それでは、みなさんの後期の取組に大いに期待し、私の話を終わります。

令和５年１０月１６日　岐南町立岐南中学校長　伊藤直輝

シュ・シュ（岐阜）日本のお祭りの、厳かな面やたのしい面などを表現します。柔軟力やアクロバティックな動きにもご注目ください。